に向けて助成等の対応策はあるのか。
②町耐震改修促進計画の周知状況と耐震診断及び耐震改修補助金の交付状況を踏まえ、助成制度の拡充の考えはないのか。
③地域防災計画の地域別避難場所の多くが、冬期間は積雪によって、その役割を果たしていないようだが、敷地管理の現状はどうなっているのか。

高薄町長
①現在、住宅用火災警報器の高齢者世帯への普及率は63・5％であり、清水消防署でも啓発活動を行っているが、なかなか普及率が向上しない状況である。町としても調査を行い、対応策を検討したい。
②耐震改修補助金は、広報紙等で周知しているが、改修工事に多額の費用を要するということもあり、申請者は現在いない状況である。今後も更に制度の周知を図っていきたい。
③冬期間、避難施設である公共施設や学校については、駐車場等施設周辺の除雪はしているが、避難場所である広場やグラウンドの常時除雪は困難な状況であることから、避難施設にて対応したいと考えている。

町内には、地域別に避難場所19か所、避難施設28か所が設置されている。

地上デジタル放送移行への対応策は

佐藤幸一 議員
本年７月からの地上デジタルテレビ放送への移行に伴い、弱者に対する国の支援策について、本町対象者への周知状況はどうなっているのか。
また、国の支援の対象とならない低所得者世帯への町独自の支援はできないか伺う。

高薄町長
国の助成制度については、広報紙等に掲載し町民に周知している。
町としては、申請時の証明書等の発行手数料を無料にするなどの支援をしている。
町独自の補助制度は現在はないが、今後、調査して、必要であれば検討していきたい。
また、地上デジタルチューナーの設置方法等がわからない場合は、職員が相談を受けるなどの対応も考えている。

ビート作付け支援の対応策と危機感は

口田邦男 議員
基幹作物であるビート作付け減に歯止めをかけるため、本町もＪＡと共同で独自の支援策を進めるようだが具体的な内容を伺う。
また、作付け減少は農家だけではなく、関連産業等にも影響するなど、本町においては地域崩壊に結びつく大問題であり、危機感をもって対応すべきである。
思い切った対策が必要と考えるが、現在進めている支援策で、危機を脱することができるのか考えを伺う。

高薄町長
ビートの作付け面積は平成15年のピーク時以降、減少傾向が続いており、町内関連産業の工場等の操業縮小及び雇用にも影響すると考えられる。
現在の国・道による助成だけでは不足なため、平成23年度から2年間、町としても支援策を実施することにした。
また、平成23年度から導入される戸別所得補償制度では、従来よりもビートの販売価格が上昇傾向にあり、収入を高めていくことが期待できるので、生産者に制度を理解してもらい、増産対策を進めていきたい。

ビートの作付け減少が進むと、関連産業にも影響すると考えられ、対策が急がれる。

北海道ガーデンショー開催に伴う本町の取り組み

口田邦男 議員
来年、北海道の自然を生かした庭文化を全国に発信しようと、本町で北海道ガーデンショーの開催が予定されてるが、このイベントを本町の地域振興にどうつなげていくのか伺う。

高薄町長
ガーデンショーは、来年、十勝千年の森で開催される予定で、数十万人の入場者数が見込まれている。期間中は本町の物産販売等も予定されており、それに向けて、観光協会をはじめ、関係団体と協議しながら準備を進めていきたい。
また、夕張・占冠間の高速道路開通も今年予定されていることから、この機会に本町の振興につなげていきたいと考えている。